○母衣社と八幡宮

淀川に母衣社という宮がある。義家公の保呂（背に負つて矢を防ぐもの）を祀つたものであるという。また西村の八幡宮も義家公と関係が深い。寛治五年（一〇九一）義家公後三年金沢攻めのとき、あまたの兵をひきいて、西村の地に一泊した。その際、猿田村の里正、武藤伊賀某のもとに兵糧を求めた。伊賀某は早速白精の米五斗を献じた。このとき義家公よりいただいた書状が右記録とともに保存されていたが、永禄（一五五八～一五六九）年中の火災で焼失したという。伊賀某は、義家公一夜宿りし跡を社地と定め一宿山といい、正八幡宮を建てた。御神体としては、義家公の兜の神宿にいただきたまわつた一寸五分程の黄金の神像を祀つたという。

その後年をへて、鈴木兵左エ門家へ斎主を譲つたという。

（淀　川）